

# 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について

4月19日に6年生を対象に実施しました全国学力・学習状況調査ですが、学校としての結果分析と今後の学力向上に向けての対策を検討してきました。今回、その結果と今後に向けての基本方針をお知らせします。

## <調査結果についての留意点>

- 本調査の結果については児童が身につけるべき学力の一部であり、本校の教育活動の一側面を表すものです。
- 今回の分析は全国・全道の平均値との比較であり、全体の傾向をつかむことを目的としています。個人の結果については、それぞれのご家庭にお渡ししています。

## 1 調査の内容

### ①教科に関する調査（国語・算数）

主として「知識」に関するA問題	主として「活用」に関するB問題
<ul style="list-style-type: none"><li>• 身につけておかなければ後の学年などの学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>• 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>• 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容等</li></ul>

### ②学習状況調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査）

## 2 教科に関する調査の結果（概要）

### （1）国語

①国語A：平均正答率は、全国平均・全道平均を下回っています。

- 特に、言語についての知識・理解・技能に、課題が残りました。漢字を読む設問では、（むだを省くようにする）・漢字を書く設問では、（したしい友人と出かける）
- ローマ字を読む設問では、（hyaku）の正答率が低かったです。

②国語B：平均正答率は、全国平均・全道平均を下回っています。

- 質問の意図を捉えたり、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する設問の正答率が低かったです。

### （2）算数

①算数A：平均正答率は、全国平均・全道平均を下回っています。

- 量と測定の領域は全国・全道平均を上回っていますが、その他の領域は下回っています。特に、数と計算領域で課題が残りました。  
2.1÷0.7、4.65+0.3、18÷0.9の計算の正答率が低かったです。

②算数B：平均正答率は、全国平均・全道平均を下回っています。

・各領域とも全道・全国平均を下回っていますが、その差が小さくなっています。

「正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると面積が4cm<sup>2</sup>小さくなることの説明を書く」・「示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができる」・「示された四角形を並べてできる図形を選ぶ」といった設問の正答率が低かったです。

<全体を通して>

国語A・Bと算数A・Bも、平均正答率は、全国平均・全道平均を下回っているものの昨年と比べ差が縮まり、改善の傾向が見られました。特に国語B・算数Bについては過去5年間で、その差が最小となっています。また、正答数の分布をみると、今までにあった二極化傾向が改善されてきております。

### 3 学習状況調査の結果（概要） ※質問紙調査から明らかになった傾向です。

①望ましい傾向（全国・全道平均と比べて望ましい傾向が強い項目）

- ・家の人と学校の出来事について話をする割合が多い。
- ・新聞をよく読むとか、読書が好きといった子の割合が多い。
- ・家の手伝いをよくしている子の割合が多い。
- ・ふだん1時間以上勉強していると答えた子の割合が昨年と比較して多くなった。

②特に課題となる傾向（全国・全道平均と比べて特に課題として考えられる項目）

- ・自分にはよいところがあると答えた割合が少ない。
- ・難しいことでも失敗を恐れずに挑戦すると答えた割合が少ない。
- ・3時間以上テレビやビデオを観るとか、テレビゲームをするといった割合が多い。
- ・学校の宿題をしていると答えた割合が少ない。
- ・普段（月～金曜日）並びに休みの日の勉強時間が、勉強しない・30分未満の割合が多い。

### 4 改善に向けて

①基本的な生活習慣の定着とともに、家庭での学習時間の確保について、児童・保護者に働きかけていきます。

②家庭学習の習慣化を進めるため、宿題を含め計画的な家庭学習の取組方法を児童やご家庭へ継続してお知らせします。（家庭学習のてびきの活用）

③学習した内容が定着できるよう、繰り返し学習やまとめの練習問題を充実させます。

④算数科における少人数指導や個に応じた指導を充実させ、学習面でのつまずきに対処します。

⑤「話す・聞く活動」「見通しをもった活動」を重視し、「わかった・できた実感できる」授業づくりをさらにめざします。

